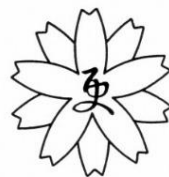


掛川地区 更女会だより

第101号 更女会だより

掛川支部担当

令和3年9月発行



『楽しい更女活動を！！』

会長 大石 幸恵

本年度は役員改選の年。小澤会長からバトンを受け継ぎ3ヶ月が経ちました。

新型コロナウイルスが猛威を振るい、私達の日常生活にも大きな影響を及ぼしています。更女会も同様に、総会も縮小開催となりました。

こういった状況下でも、一円玉募金やシトラスリボン募金をはじめ、更女のお茶の購入、まきばの家への雑巾や給食袋等の寄贈をいただき、会員の皆様のご協力や、温かいお気持ちに心よりお礼申し上げます。

先日、2回目の正副会長会を持ち、当面の課題や、前期の活動等について話し合いました。

事業計画も、感染症の予防対策を講じながら、「できる時に、できる活動を！！」と考えております。会員の皆様の趣味や特技を活かした活動も、取り入れていきたいと思ひます。

本年度は、7名の新会員を迎え、150名の会員数となりました。更女活動の情報発信をして、一人でも多くの仲間が増える事、次回も参加したくなる楽しい活動ができる事を願っています。

役員一同、3年後に向かえる更女会60周年に向けて邁進していきたいと思ひます。

前年同様に、皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



目次

- P1 楽しい更女活動を！！
(会長 大石 幸恵)
- P2 新理事の紹介
- P3 熱海伊豆山土砂災害被災地への義援金について
(会長 大石 幸恵)
- P4 保護司会、更生保護女性会の相互連携をすすめるコツ
- P5 まきばの家(デンマーク牧場福祉会運営)花壇の植栽
(大須賀支部 鈴木 睦子)
- P5 デンマーク牧場の花壇で“花の定植”
(大須賀支部 鈴木 さえこ)
- P5 花壇の手入れ
(大須賀支部 坂田 さか江)
- P6 はじめの一步 デンマーク牧場へ
(大須賀支部 大石 悠子)
- P6 「おかえり」の挨拶
(大東支部 藤田 美知子)
- P7 暑さとコロナに負けない夏
(大東支部 笠原 ちよ)
- P7 ある出会いより
(掛川支部 山崎 富美子)
- P7 無題
(掛川支部 齋藤 昌子)
- P8 無題
(掛川支部 橋本 富美枝)
- P8 理事という立場をお受けして
(掛川支部 和田 とし子)
- P8 感謝状を頂いて
(掛川支部 山崎 富美子)
- P9 新しい活動のカタチ
(掛川支部 小澤 悦子)
- P10 今後の活動計画

掛川市役所福祉課

掛川市長谷 1-1-1

TEL:21-1140 FAX:21-1163

掛川地区更生保護女性会

<http://kakegawa-koujyo.com/>

会長 大石 幸恵 TEL:48-3831



～新理事の紹介～

今年度は、コロナ禍の為に総会が縮小され、会員の皆様に参加をしていただけなかった為、ここに新役員の紹介をさせていただきます。

尚、大須賀支部の大石さかゑ理事（会計担当）は、当日欠席の為、写真には載っておりません。



よろしくお願いします



更生保護女性会への要望、ご意見等がありましたら連絡網左端の連絡員迄ご遠慮なくお聞かせください。



『熱海伊豆山土砂災害被災地への義援金について』

会長 大石 幸恵

第1回の理事会を7月7日開催し、本年度事業計画の具体案を検討。また、保護司さんとの連携強化を目的とした研修を行いました。

研修内容については、次ページにて報告させていただきます。

7月3日午前に発生した「熱海伊豆山土砂災害被災地」に義援金をお届けし、少しでもお役に立ちたいとの意見が出ました。

検討結果、例年、年末に歳末助け合い募金として、社会福祉協議会にお届けしておりました一円

玉募金を、今回は、被災地への支援に向けることを全員一致で決定しました。

一円玉募金、13,690円と、一会員@200円相当として、会員150名分30,000円を皆様からの会費より拠出し、合計43,690円を、7月20日、正副会長で、久保田市長にお届けしました。

一日も早い熱海市の復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

会員の皆様には、日頃のご協力に感謝すると共に、ご理解いただきたくお願い申し上げます。



**一日も早い熱海市の復旧復興を
心よりお祈り申し上げます！**



『保護司会、更生保護女性会の相互連携をすすめるコツ』 7 / 7

「保護司会、更生保護女性会の相互連行をすすめるコツ」のDVD研修を、理事15名が参加し、大須賀交流センターにて行いました。

コロナ禍で会員の皆様にご参加いただけませんでしたので、その内容をおつなぎします。



今日の目標

保護司・更生保護女性会・BBS会の相互連携を進めるコツを学んで、できることからやってみようと思う

＜三者が相互連携を進めるコツ＞

しる

- ・お互いの団体の歴史を知ろう
- ・お互いの団体の特性を知ろう
- ・お互いの活動を知ろう
- ・何が一緒にできるかを知ろう
- ・地域の更生保護に対するニーズを知ろう



＜三者が相互連携を進めるコツ＞

つたえる

- ・お互いの活動や団体の思いや考えを、整理し分かりやすく話してみよう。
- ・思いや意見を話すとき、「私」「私たち」メッセージで話してみよう。
- ・自分を通して伝えられるものはないだろうか？という意識を常に持っていよう。



＜三者が相互連携を進めるコツ＞

まきこむ

- ・「そういえば！！あの人がいる」というイメージを膨らませてみよう。
- ・常に「〇〇さんとながらうなのは」「もっと効果的にするためには」など他の団体に開いていく発想をもとう。
- ・役割をお願いする、相談をする、任せるなどを意識しよう。
- ・一緒に活動できること、手伝えることはないか考えてみよう。



『まきばの家（デンマーク牧場福祉会運営）花壇の植栽』 6／29

大須賀支部 鈴木 睦子

大須賀支部では、平成30年12月から《まきばの家》敷地内の花壇の手入れをお手伝いしています。夏の作業は初めてでしたが、突然の依頼にも関わらず19名もの会員が参加し、梅雨の合間を縫って更女パワーを発揮しました。



『デンマーク牧場の花壇で“花の定植”』 6／29

大須賀支部 鈴木 さえこ

前日の雨も上がり、デンマーク牧場の花壇で“花の定植”。初めて参加の私には、とても良い体験となりました。

打ち合わせもないのに数ヶ所の花壇に分かれ、花の高さ・色のバランスなどを考えて苗を置く人、それを植えていく人・・・皆さん手慣れていて、作業に無駄がありません。

それでも蜂の駆除・ムカデに刺されたときの対処など身近な話題もしながら、1時間半があっ

という間に過ぎました。

仕上げられた花壇のきれいなこと・・・

日差しも強くなり、じっとりと汗をかきながらも、とても気持ちの良い時間でした。

最後に施設の方から、「ツバメの親子に対する子供たちの思いを聞き、帰宅した子供たちが花壇の花を見てどんな反応をするか楽しみです。」の言葉に『少しは役に立ったかな』という嬉しさと、さわやかな気持ちをいただきました。

『花壇の手入れ』 6／29

大須賀支部 坂田 さか江

初めて参加させていただいた「まきばの家」の花壇植え付け作業！！

雨上がりの夏の日を浴びながら作業の始まりです。

草取りから堆肥を入れ植え付けが始まり、場所によっては大きな石がゴロゴロ・・・

植えようと穴を掘ると土が浅くコンクリートにあたります。

マリーゴールド・ブルーサルビア・ナデシコ・

千日紅。

コロナ禍の中で汗を流しながらの心が和む楽しい時間でした。咲き揃った時の色を描きながらの作業です。

子供たちが帰ってきたときの反応はどうでしょう・・・

子供たちが知恵を出し合い、健康で無邪気に過ごしてくれる姿を花壇の花も見守ってくれる事と思います。



高齢をむかえ、昨今のコロナ禍も重なり家にこもる時間が長い生活になりました。

そんな折、友人の勧めから更生保護活動に参加させていただきました。

一人では何の活動もできませんが、グループの一員として少しでも社会との繋がりを持ちお役に立てればよいと考えたからです。

そして、初めての活動がデンマーク牧場の花壇の手入れ。天候はどうだろう、どんな方が来るかしらと、多少の不安を抱えながら、集合場所に行ってみると顔見知りの方もいらしたので一安心。現地に着き作業の段取りの説明を受け、4 か所に分かれてスタートしました。

草取りをする人、鍬で耕す人、苗を配置する人、植え込みをする人、皆さん手際よく和気あいあいの中、作業がどんどんと進みました。1 時間半の時間ピッタリに見事な夏の花壇が完成しました。

サルビア、マリーゴールド等々色とりどりです。

会員 19 名の皆さんと共に汗を流し、清々しい気持ちで帰路につきました。

新米会員の第一歩でしたが、少しはお役にたてたかしら？（笑）



『「おかえり」の挨拶』

更女会員として心がけていることの一つは挨拶を交わすことです。

子どもの頃、唯一自信を持てできたことが、登下校の挨拶でした。田舎の通学路は野道なので、あちらこちらで働いているおばさん達の姿がありました。「おはようございます、いってきまーす」

「いってまいりました」と大きな声で言うと、「ああ、いってらっしゃい」「おかえり」と返してくれます。「元気だねえ」が嬉しかったです。

今は返す立場になりました。

スローライフ生活にどっぷりつかっている今、朝、子ども達に会う機会はまれです。10 年程前迄は、裏の道を隣の子ども達が通っていました。

夫と、もう時間になると競いあって、大きな声で楯突いて「いってらっしゃい」と言うのが日課で、張り合いでした。返ってくる声でその日の調子が解ったように思います。

通路沿いの田畑の仕事がないと、下校中の子ども達の姿を見ることは容易ではありません。道か

ら離れていても、「こんにちは」と声を掛けてくれる子どもは多いです。

夕暮れ時の「こんにちは」は、私達夫婦はためられます。「おかえりなさい」と声を掛けてしまいます。

子どもはためらい、恥ずかしそうに通り過ぎます。明日はこの道を通ってくれるだろうか？

夫が中学校の会合で話し、学校だよりに掲載されました。些細な話題を取り上げてくれた学校の配慮と温かさに涙しました。回覧を読んでもくれた人はどう感じてくれたのでしょうか。〔地域の皆様、ぜひ今後も「いってらっしゃい」「おかえり」の言葉を〕は心に沁みました。



『暑さとコロナに負けない夏』

大東支部 笠原 ちよ

異常な暑さ、「デルタ株」の感染拡大、毎日必要な食品は、取り寄せてくれるので、週1回くらいの買い物ですましています。総会も役員だけで行われました。人と人との接触をさける。きびしい日が続いている中、役員の人達は何かと動いてくれます。協力できる活動があれば出席したいと思います。



『ある出会いより』

掛川支部 山崎 富美子

先日、シューフィッター（ひとりひとりの人間の足にピッタリと合う靴を選んで提案する専門家）の方に足を診ていただいた。長い間の癖、習慣を足が物語ると言う、私の足は小指が曲がって内側を向いてちぢこまっていて、とても爪が小さい。本来は親指、小指、かかとの3点が重心を支えて立つべきだが、小指がしっかり機能していない。このままだと0脚になり腰痛の原因にもなるとも言われた。横のアーチが弱いのだそうだ。確かに歩くと2、3番目の指の下側が痛む、前から気になっていたので合点がいった。やっと解明できた。原因がわかったので、小指を伸ばし、グーチョキパーの動きをしたりと改善の方向に持っていきたい。まさに“脚下照顧”足元を見ろ！です。

木は均等に光が当たり、風が通り枝振りも良くするように剪定をする。部屋の中も不要な物は入

れず、いらぬ物は捨て、物の執着から離れる。いわゆる断捨離だ。身体も心も知らず知らず、癖、習慣を重ねて、気がつかないうちに間違った方向に行ってるかもしれない。ちょっと立ち止まって、考えたり、反省したり、他人の声に耳を傾け、自分を修正することが大事だなと思ったシューフィッターの方との出会いでした。

「心が変われば行動が変わる。

行動が変われば習慣が変わる

習慣が変われば人格が変わる

人格が変われば運命が変わる」

ある心理学者の言葉です。マザーテレサも同じ様なことを言われていますね。コロナも変異して強くなっているようですが、私も負けずに変わることによって逞しく、優しく、老人力を発揮していきたいと思っています。

『無題』

掛川支部 齋藤 昌子

平成29年に知人から更生保護女性会の趣旨、活動もよく分からないまま誘われて入会しました。

最初の2年間は更生保護施設・矯正施設の訪問など活動。地域でのミニ集会、保護司さんの手伝いを行っていました。昨年からは、コロナ感染の影響で活動自粛となっております。

今後は、更女会員のすべての方が参加して一緒に連携、協働をとり力を合わせて活動できたら楽しく素晴らしいことだと思います。



『無題』

掛川支部 橋本 富美枝

「更女」の存在も、何も知らずに、大先輩の紹介で、会員にさせていただき、5年が経ちました。

新人研修をはじめ、総会と大会、駿府学園の見学、矯正展、軽トラ市、社明運動、裁判の傍聴等。それぞれ初めての体験で、興味深く参加させていただきました。

まだまだ、何が何だか分かりませんが、その都度の、先輩会員の皆さんとの交流が楽しく、続けて来れたと思います。

これからも、少しずつ、色々と経験をさせていただきたいと思います。宜しくお願いします。

『理事という立場をお受けして』

掛川支部 和田 とし子

4年前の新会員研修会で、県更女連盟堀会長の「できる時に、できる活動を」のボランティア活動に沿ったお言葉が、頭に残っています。その言葉に同感して私も「自分なりのやれる時に、やれる事を」と思って参りました。その中で、更生保護女性会の4つのキーワード

1. 女性
2. ボランティア
3. 更生保護
4. 地域性

を活動に組み入れ、4の住んでいる地域を単位に市民・他団体と連携して心豊かな社会を育てる事が、更生保護女性会のあるべき姿かと思います。

更に、7月7日の理事会で研修したDVDを見て保護司と更女は対等な立場である事もわかりました。今後共に、知らない事を学び、気がついた事を声に出していくと活動しやすくなると感じました。

こうした事で、昨年よりも楽しい活動となっていくよう整えられていけたらと思います。

皆様、どうぞ更女のキーワードをお忘れなく!!



『感謝状を頂いて』

掛川支部 山崎 富美子

何もしないで、役に立っているという思いの無いまま感謝状を頂きました。役員を受けて、素敵な方々にと出会わせていただきました。役員会等で車に便乗し、時には会食をしたり、珍しい所や買い物に連れて行っていただいたりと楽しい時間を過ごさせていただきました。貴重な体験をさせてもらったことに、私から更女会に感謝状を贈りたい気持ちです。

今は活動出来ない状態が続いて残念ですが、出来るようになったら、今迄当り前と思っていた事が有難いという気持ちに変わって活動出来るよ

うな気が致します。（「当たり前」の反対は「有る事が難しい」という事だそうです）皆と力を合わせて「良かったネー」「楽しかったネー」と言い合える日が来るその日迄、スタンバイ、心の準備をしておきます。



会員の皆様、役員の皆様に支えられ、2年間会長を務めさせていただきました。御協力ありがとうございました。無事次にバトンを渡す事ができほっとしています。

平成から令和に変わり、気持ちを新たに出発するはずでしたが、去年はコロナウイルスに明け暮れ、更女活動も一変しました。

「ふれあいと対話が築く明るい社会」。これは社会を明るくする運動のスローガンです。ところがコロナにより触れ合う事も対話もままならなくなりました。

私は、更女の他に日赤奉仕団に加入しています。活動の一つにウエスの収集があります。穴のあいたタオルや捨てる寸前のシーツなどをB5版にカットし貯めておき、特養施設に寄付します。油や汚物をふき取る事に使うそうです。ゴミ袋に入っていた穴あき布がウエスに変身し、喜ばれると

は、目から鱗でした。このように、コロナ禍でも、誰にでもできる活動が他にもあるのでは？

更女会の去年は、手作りマスク作成に始まり、雑巾作り、シトラスリボン作りといろいろチャレンジしてきました。コロナとの戦いは、まだまだ続きそうです。会員の皆様150人が、知恵を出し合い、今後の活動に加える事ができるボランティアが見つかるといいなと思います。従来の研修会や視察は、一部の会員だけの活動でした。ステイホームしながら、ストレスを貯めずに楽しんで続けられる事、探しましょう。ふれあいと対話ができる日常が、一日も早くもどります様に。



お詫びと訂正のお知らせ

先日発行した更女会だより100号において、一部誤りがございました。深くお詫び申し上げますとともに、次のとおり訂正いたします。

更女だより100号 8ページ

【誤】 夫丹精の豆より生まれし新豆腐

【正】 夫丹精の豆より生れし新豆腐

～編集後記～

緊急事態宣言、8/20～9/12迄、対象地域には、掛川市も入っています。その夜、「おしゃべり交流会」は見合わせますとの連絡が入る。会員さんに連絡をしますと「感染者には私達の様な高齢者はいない様だけど、無理な会合は残念ですが開かない方がいいね。」ある方は、「これで又物価が上がるね。疲れてしまう。」主婦の切実なひと言です。市長さん自らが、命を守る為の協力をと市民に呼び掛けています。先の見えないこの状況に不安な日々です。

更女会だより101号は、掛川支部が担当です。

コロナ禍他で、心がお疲れの皆様、心がほっこりして元気になってくださると嬉しいな。と思っています。ご協力ありがとうございました。

掛川支部一同





～今後の活動計画～

月	日	事業	場所
9月	15日	社会を明るくする運動 作文一次審査会	大須賀市民交流センター
	17日	作文二次審査	大須賀市民交流センター
10月	21日	少年の家 食事作り（大須賀支部）	静岡少年の家
11月	13日	冠講座	県立掛川東高校
未定		けつとら市：更生保護事業PR活動	

【大須賀支部】

月	日	事業	場所
8月	26日	おしゃべり交流会 児童養護施設 まきばの家施設長 小久保秀樹氏講話	中止
12月		まきばの家 花壇の手入れ	まきばの家
未定		フェスタ大淵参加	アイク・大淵農村改善センター

【大東支部】

月	日	事業	場所
10月		おしゃべり場 中部電力浜岡営業所派遣職員の講話	コロナ禍のため未定
12月		小笠老人ホーム「小笠の郷」	小笠の郷

【掛川支部】

月	日	事業	場所
未定		掛川署生活安全課職員の講話	コロナ禍のため未定
未定		ききょう荘 花壇の手入れ	ききょう荘

※コロナ禍により予定が全て実行できるとは限りません。

